

活動終了報告書(要約)

採択年度	2019 年度
コード番号	19A163

団 体 名	被爆者証言の世界化ネットワーク (Network of Translators for the Globalization of the Testmonies of Atomic Bomb Survivors (NAT-GTAS))	申請額
		1,000,000 円
		助成額(受領額)
		1,000,000 円
事 業 名	被爆者証言並びに物語の多言語翻訳 (Multilingual translation of the testimonies and stories of atomic bomb survivors)	事業地(国名)
		日本

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要(創立年、趣旨、主な活動等) * 300 字以内

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に所蔵されている 1500 本以上の被爆者証言ビデオに多言語で字幕を付し、日本人被爆者の声を、日本語を解しない世界各国の人々に伝えることを目的として、2014 年 1 月に創立された団体である。その活動は、①字幕を付すべき証言ビデオと翻訳言語の選定、②各作品の翻訳チームの編成(原則として、監訳者を中心に、日本人訳者、ネイティブ話者の合計三名からなるチーム。国内外の大学での翻訳授業単位でチームを編成しているものもある。)、③翻訳チームと祈念館との間での、翻訳依頼・作品納品・(数次の)作品校正の全過程に互る、仲介と調整と管理。翻訳チームを、年度の前半と後半とで、二つのグループに分けて、年間平均で総計約 20 から 30 作品を完成させてきた。

■ 今回実施した活動の概要) * 400 字以内

2020 年度は、コロナウイルスの感染状況に配慮して、編成する翻訳チーム数を 20 組に制限したが、作業過程はコロナ禍の影響を大きく受けて、翻訳授業チームでは授業が困難になったり、チームメンバー間の共同作業及び連絡に大きな支障が生じたりしたことに加え、事務担当者の一人が重大な事故に遭遇して、例年になく活動に困難が生じた。しかし、極めて困難で危険な状況にも拘らず、例えばドイツのボン大学のチームやハンガリーのチームなどは、極めて完成度の高い作品を製作してくれた。そうした努力の御蔭で、前期分で祈念館のサイトにアップできたのは、僅か 2 作品に止まったが、調整の結果、後期分として祈念館のサイトにアップできたのは、3 月末日までに 6 本、6 月 4 日までに 9 本、総計 17 本であった。残りの 3 本は、現在作業中で近日中にはアップされる見込みである。

■ 成果 * 400 字以内

2021 年 6 月末現在で、既に、総計 195 本の作品が祈念館のサイトで公開されている。また、同時点で、3 本の作品を準備中であり、2021 年度前半で、200 本に到達する見込みである。以下、2020 年度計画分で、アップできた作品の数を言語別に挙げる。ドイツ語 2 本、アラビア語 3 本、英語 3 本、フランス語 1 本、スペイン語 1 本、イタリア語 1 本、ハンガリー語 1 本、クロアチア語 1 本、中国語 1 本、ヒンディー語 1 本、ロシア語 1 本、ポルトガル語 1 本。その他に、NET-GTAS 独自の作品サイト(<https://survivors-stories.com/jp/>)を立ち上げて、現在までに以下の 3 本の作品を多言語で公開している。①「坪井直『魂の叫び』」(福山市の盈進学園のヒューマンライツクラブとの共同制作)日本語版・英語版。②「永野博明・金澤悦子『あの日から』」(絵本)日本語版・スペイン語版・英語版。③「佛教大学社会福祉学部黒岩ゼミ制作『おばあちゃんの人形』」(紙芝居)日本語版・スペイン語版。

* 記載者へのお願い: 本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい(全体で 1100 字以内程)。